

令和7年3月4日

## 令和6年度 とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	台東区立田原幼稚園
所在地	台東区雷門1-5-17

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然（ダンゴムシ）

<テーマの設定理由>

限られた園庭ではあるが、小さな虫や、自然物との関わりの中で、様々なことを感じ、考えている子供の姿が多くみられる。自然との関わりの中で、小さな生き物と触れ合うことで、命の大切さを感じて欲しいという思ったため設定した。

### 2. 活動スケジュール

令和6年5月～10月頃

- ・5月頃：ダンゴムシを捕まえ、飼育し始める
- ・6月頃：ダンゴムシ体操をする
- ・7月頃：ダンゴムシの製作をする

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・木の周りにいるダンゴムシ。
- ・土とダンゴムシを入れる、飼育ケース。
- ・土が乾いたら水を掛けられるように水入りのスプレーを用意する。
- ・ダンゴムシについて知ることができる、図鑑、本、絵本等すぐに手にとれる場に置いておく。
- ・よく見える虫メガネを常設しておく
- ・製作で使う紙やトイレトペーパーの芯
- ・ダンゴムシの体操の曲

#### 4. 探究活動の実績

##### <活動の内容>

- ・園庭で木の根元にいるダンゴムシを見つける。見つけたダンゴムシをどうやって捕まえるか考える。(カップで捕まえる。手で捕まえるなど)
- ・飼育ケースでどのように飼育するかを図鑑で調べてみる。実際に土を入れたり、葉っぱを入れたりしてみる。土が乾いたときに水を掛けたり、ダンゴムシが食べそうなものを飼育ケースに入れたりする。
- ・ダンゴムシ迷路を作って実際にダンゴムシを歩かせてみる。
- ・ダンゴムシの動きを真似してダンゴムシ体操をしてみる。
- ・製作でトイレトペーパーの芯を半分にしたものを使いダンゴムシを作ってみる。

##### <活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

- ・ダンゴムシを捕まえている子供たちの中に、手で捕まえられない幼児がいた。「どうやって捕まえるの?」「こうやって指で捕まえるんだよ」と、捕まえ方を見せている。「でも怖いよ」「カップを使ったらダンゴムシを捕まえられるかもしれないね」と友達同士で教え合いながらダンゴムシを捕まえていた。
- ・「先生、ダンゴムシを入れる入れ物ちょうだい。」と言ってきた。飼育ケースを渡すとダンゴムシをそのまま入れているので、「どうやって飼ったらいいか調べてみない?」とダンゴムシの出ている図鑑を一緒に見て、どうやって飼ったらいいか、どんなものを食べるのか調べてみた。
- ・テーブルの上で歩いていたダンゴムシが落ちそうになったので、手で止めると左右に曲がって進んでいく動きが見られた。子供たちは「あっ曲がった。おもしろい。」と言って教師の用意しておいた紙をテーブルの上に貼り付けて迷路のような物を作りダンゴムシを歩かせ遊んでいた。

##### <活動の様子>



## 5. 振り返り

(振り返りによって得た保育者の気づき)

- ・虫が得意ではなかった幼児が、触ろうと（捕まえようと）毎日毎日挑戦している姿に驚いた。
- ・ダンゴムシについての情報が載っているもの、図鑑・絵本などがあることを知らせたことで、その後も自ら図鑑を持って来ていろいろなものを調べるようになった。
- ・ダンゴムシに親しみや好奇心を高めていった。大切にできる環境や機会をもつことが、小さな虫でも、命あるものとして、価値付けることにつながった。
- ・子供たちの興味をもったタイミングで教師の意図を踏まえた投げかけをすることで、「見つける」「捕まえる」だけでなく「生き物」としての扱いを意識することにつながった。
- ・ダンゴムシという子供が興味関心のあるものから、リズム遊びや製作等、様々な活動や遊びが展開できた。

以上